

---

第9回江府町議会12月定例会会議録（第2日）

令和5年12月6日（水曜日）

---

議事日程

日程第1 町政に対する一般質問

---

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

出席議員（9名）

1番 加藤周二	2番 芦立喜男	3番 森田哲也
4番 川端登志一	5番 阿部朝親	6番 三輪英男
7番 長岡邦一	8番 川端雄勇	9番 三好晋也

---

欠席議員（なし）

---

欠員（1名）

---

事務局出席職員職氏名

事務局長 ..... 松井英樹

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 .....	白石祐治	副町長 .....	八幡徳弘
教育長 .....	富田敦司	総務課長 .....	生田志保
住民生活課長 .....	松原順二	産業建設課長 .....	末次義晃
教育課長 .....	谷田孝之	会計管理者 .....	藤原靖

---

午前10時00分開議

○議長（三好晋也君） ただいまの出席議員数は9名です。地方自治法第113条の規定による

定足数に達していますので、令和5年第9回江府町議会12月定例会第2日目の会議を開きます。

最初に、議案第122号、令和5年度鳥取県日野郡江府町一般会計補正予算（第10号）の、川端登志一議員の質疑に対する回答を別に配付しておりますので、御確認願います。

本日の議事日程は配付のとおりであります。

なお、日程に先立ち、傍聴の方をお願いいたしますが、傍聴規則に従い傍聴いただきますようお願いいたします。

直ちに議事に入ります。

---

### 日程第1 町政に対する一般質問

○議長（三好 晋也君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、1人につき質問、答弁を含めて60分で進行します。

質問者、2番、芦立喜男議員の質問を許可します。

芦立喜男議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） 議長の許可を得ました、2番、芦立でございます。

ミニライスセンターの新設について質問させていただきます。

秋も深まってまいりまして大山も真っ白な状態でございます。私の農業も、やっと後ればせながらタマネギを植えて、ニンニクを植えて、後は春を待つばかりになってまいりました。

昨年、まあまあ良かった米も、今年は非常に米の品質が悪くなりました。鳥取県のウルチ米の1等米は48.7%、コシヒカリについては50.1%、昨年より24.5ポイント下がってしまいました。一番ひどいのは新潟県、1等米15.7%、南魚沼産で有名なコシヒカリに至っては、4.9%、74.5ポイント下がった状況でございます。鳥取県でも3等米も多数できました。その上に、規格外と言われる米としては売れずに、煎餅とかあられとか、ああいうものに出すような米もあったと聞いております。それに比べて、暑さに強い品種を作った九州、あるいは四国は、前年の1等米よりも良かったようでございます。この辺何で落ちたかと申しますと、乳白粒と一般的に言われております未熟米が猛暑で発生して品質を落としております。

そんな中で、米食味分析鑑定コンクールで、貝田の遠藤さんが金賞を受賞されました。誠にありがたいことでございます。鳥取県の米のブランドを、これで遠藤さんのおかげで落とさずに済んだかなという具合に思っております。

昨年、みちくさのクラウドファンディングで6,800万ものふるさと納税をいただきました。

ありがとうございました。みちくさ工房は、10月末までかけて工事をいたしました。機械の据付け、冷蔵庫等の据付けを終わって、11月中旬餅をつきました。今日から、クラウドファンディングでいただいた方々に、お礼の丸餅、かき餅の製造が始まりました。

私も、モチ米を2反3畝作ってみちくさに納入しましたが、問題は、8月下旬にモチ米を刈り取って、どこで乾燥、どこでもみすりをして玄米にしたらいいか困りました。個人に頼む手もあるんですが、個人に頼みますと大体2反ぐらいしか入らない乾燥機でございます。ミニライスセンターは受け取ってもらえない。神奈川のミニライスセンターでは、10月中旬から下旬でないを受け取ってもらえない。これは、米が、モチ米とウルチ米と混ざること非常に嫌がるからでございます。品質上も、モチ米にただ米が入る、この状態で餅を食べるとこりゃあ餅じゃあねえがなみたいなことになってしまいます。

何とか美用集落でお世話になり、乾燥していただき、その後、10月までうちの倉庫に置いて、ミニライスセンターでもみすりをしてもらいました。モチ米を刈り取ってから50日程度かかってしまいました。町内でモチ米を作っている人が同じことをされたのか、またはバインダーでモチ米を刈り取って、はで掛けをして干して、ハーベスターで脱穀をしてミニライスセンターに入れる形になったのではないかと推測します。

みちくさのモチ米で作る餅の製造量は、昨年9石、1,350キログラムでした。今年は14石、2,100キログラム、2.1トン、プラスアルファを見込んでおります。ちなみに、この辺で一番モチ米、餅を売っております新庄村は、54トン、1,800袋を年間に餅にしているということ聞いております。今後、新庄村は、村ではなく餅を作る会社がライスセンターをこしらえて、モチ米専用のもみすり、色彩選別をかけて出すという話も聞いております。

そこで、町内のどこかに、モチ米専用の乾燥機ともみすり機、色彩選別機を備えたミニライスセンターを造ってはどうかという話でございます。町が農業公社に支援金を出して、公社で運用してもらおう。誠に勝手な話でございますが、それがいいかなと考えます。

神奈川のミニライスセンターが8月下旬から受け取ってもらえる、これが一番よいのですが、米が混ざる、品質が低下するということが一番駄目なので、これも無理じゃないかと思われま

す。新庄村は、モチ米をJAに入れて処理してもらおうことが可能です。水田の70%がモチ米の生産だと聞いております。モチ米はヒメノモチという品種で収穫が早く、8月下旬刈取り、そのために鳥に狙われやすくなります。収量が落ちて大体6俵から7俵ぐらいではないかと、よくできてこの程度ではないかと思われま

穂がまた持ち上がる、米をつついて食べてしまうということがありますんで収量がなかなか出ない。

今後モチ米の生産量が5トン、10トンと増加すれば、町内の雇用が生まれ非常にいい循環になると思われます。こう考えてみますと、やはり町内にモチ米が加工できる場所があればなという具合に思います。よろしくをお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

ミニライスセンターの新設ということで、モチ米生産がどんどん増えていって、雇用にもつながっていくんじゃないかと、そういったことを目指す場合に、ミニライスセンターが必要なのではないかとということでございました。

現状でいくと、神奈川は無理じゃないかというお話でしたけれども、実際にそのお話をされたのかどうかっていうのがちょっと分からないんですけども、駄目もとで1回は当たってみるっていうのも必要なんじゃないかなと思います。そこで議論をしながら、どうやればいいのかっていうのを1つずつ潰していくっていうのが大事なのかなとは思いました、今お話を聞いていて。

それで、今みちくささんが、クラウドファンディングでお金がたまって、工事もできて機械が入って、餅つき、ようやく餅をつかれて、これからその返礼品を送るのが始まるということでした。たしか、あのふるさと納税というか、クラウドファンディングに御協力いただいた方も、たしか1,000件近くあったんじゃないかと思います。ですのでこういう方が、これからの、続けてお客様になっていただいて、その内容がよければ、またそれからどんどん増えていくのかなと。そういったことを見越していくと、今が1,350キロで、それが今年になって2,100キロということで、新庄村の54トンにははるかに及びませんけれども、将来はちょっと期待をしたいなとは思っています。これ間違いなく思っているんですけども、そこでいきなりミニライスセンターを、公社はまた別人格なので、町がとやかく言う話ではないんですけども、公社で造ってはどうかという話を、即、そこに至るっていうのはどうかなと思います。

というのは、まずは計画性、どういう計画でこれから伸ばしていくのか本当に、販路はあるのかとか、あるいは品質はどうなのかとか。実は、先ほど米の食味分析コンクールの話が出ましたけれども、津南町、私も行ってきて、その会場を見てみると、環境王国の関係でいろんな展示品がありました。津南町の展示見てみると、あそこは、それこそ南魚沼郡ですかね、南魚沼なので本当に新潟のお米どころでして、餅がありました。やっぱり餅の加工もされているなというのを見て、やはり全国には新庄村だけじゃなくて、かなりライバルも多いなというふう感じたところ

ろです。その中で、勝ち残って販路を伸ばして行って、収量をそれこそ新庄村に追いつけ追い越せの勢いでやろうと思えば、本当に血のにじむような努力と、あとやっぱりいろんな情報収集とか戦略、あるいは計画、そういったものを立てていく必要があるんじゃないかなと思います。

まずは、身近なところで何とか対応を考えていただくのが先決なのかなというふうに思います。そういったことをして、やはり追いつかないという状態が起きて初めて次の段階に進めるのかなというふうに思っておりますので、そのときには、また担当課のほうにでも御相談いただければなというふうに思うところでございます。

いいことだと思うので頑張っただけはいただきたいんですけども、いきなり即建設という話になりますと、どうかなというところでございます。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） 答弁ありがとうございました。

いきなり大量に処理するライスセンターを造ってもなという具合には思いますが、何とか百姓家自助努力で頑張ろうとは思っております。

みちくさの、今後どんどん増やしていく計画的なものは現在ありませんが、返礼品を利用したセールス、あるいは、今後、営業に回って、この辺のスーパーにまずは話をしていく、なんていうのを会長が言っております。今後ともひとつよろしく願います。

○議長（三好 晋也君） 答弁はよろしいですか。

○議員（2番 芦立 喜男君） はい。

○議長（三好 晋也君） それでは、次の質問に移ってください。

○議員（2番 芦立 喜男君） 次の質問は、江美城周辺の整備についてお話しさせていただきます。私が、上の段広場から歩いて上がった話をさせていただきます。

上の段広場より八万丸に向けて歩き始めました。左手の家がなくなるころより、手すり整備してあるのですが、かなり急勾配で、高齢者の私には少しこたえました。途中、人枡、本丸方向へ歩いていきました。油断すると足が滑って転びそうでした。人枡に向けて入っていくと、景色は木々に囲まれて周りが見えない、また坂がきつくてちょっと困ったかないう状況でした。人枡に着いてぐるっと回る、子供の頃と変わっていないなと思いながら城山で遊んだことを思い出します。そして、西の丸へ、江尾の上町側は見えるのですが、大山方向あるいは下のほうは、木があって見にくうございます。ここは、昔サツマイモが植えてあったなと思いながら西の丸を後に、本丸跡のほうに向かって行きました。ここで、江府町内の2人の人に出会いました。

城について話をしながら、3人で本丸周辺の周回路を20メートル歩くと木がなくなり、目の前に、江尾の下町から久連方面や大山の南壁がクリアに見えました。江尾で一番景色がいいところだなと感じました。

本丸跡は、宮市法人が大豆を栽培をしております。私が行ったときには、刈り取られた後でございます。ここの本丸跡の面積は2反2畝の面積があります。西部地震以来、これは水田から転作されて畑として使われております。転作で、補助金が反当3万円程度ありますから、2反2畝、7万弱の補助金が出るとということになります。しかし、令和3年から令和7年の5年間、水田として米を耕作していないところは、令和8年に補助金は打切りになります。打切りになりますと、この本丸の跡地を誰が耕作するんだろうか、ひょっとして耕作放棄地になってしまやへんかという懸念が浮かびました。

そこで、本丸跡を町が購入するか、借り受けてベンチやあずまやを置いて、公園のようにしてはどうか、そして金箔シャチ瓦の出た調査地にも行きやすくなります。あの土地を公園にしたらどうでしょうか。私は、地権者には全然こんな話ししておりませんが、してから言うべきだったのかなと、ちょっと今反省しております。よろしくお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

江美城周辺の整備ということで、本丸跡を購入するか、借り上げて公園として整備してはどうかというお話でございました。いろいろとお話がある中で、あの坂道、あれもクラウドファンディングでやったんですけど、手すりをつけて、舗装っていいですか、してありました。先日、11月26日にイベントを上段広場でやったときも、最後、花火が運動公園のほうから打ち上がったのを見るのに、あの急な坂道を上がって、見て写真撮る人も結構おられて、なかなか本当に眺めのいい場所、さらに上に上がるともっと平たくて、眺めのいい場所に行き着きます。いろいろライブとかもされたりして、最近ちょっと江美城にスポットが当たって、活用されてきたのかなという気はしております。

非常に夢のある話ではあるんですけども、そもそものスタートが、大豆植えてるけど令和7年度で補助金切れるから、補助金切れた後にどうなるんだということで公園づくりっていうのが、ちょっと構想的には、何か、どうなのかなという気は若干しております。ですので、やっぱり物を造るとなると、その後どうするのかっていうのは必ず付きまってくる話でございます。

今あるお城の形をした資料館も、昭和53年ぐらいに建てられたものでしょうけれども、外か

ら見る分にはいいんですけど、結構、資料館としてあそこまで上がるには、とても急勾配で大変で、トイレもないっていう話も最近ちらほらと出てくる中で、やっぱり新たに、公園をあの上に造るとなると、もうちょっとじっくり考えてからやったほうがいいんじゃないかな。お考えはとても夢のある話だとは思いますが、ちょっと何かこう、ぼっと思いついたような話なのかなと思いますので、もうちょっと練り上げる必要があるのかなというふうに思います。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） ぼっと思いついた話かなという話でございますが、実は、今からとんと昔の話、15年ぐらい前の話じゃないですかね、あの江美城周辺を、公園化構想というのが江府町であったと思います。その話を私、心の片隅に残っておりまして、上がったときに、ああ本当、ここ公園にしたらなと思って、私自身が、まんざらばっと山に、山いうか城跡に登って思い浮かんだ話ではなく、昔こういう話があったなと思いながら登った経緯があります。

その当時、私が直接関わってはおりませんから詳しい話は分かりませんが、地権者の方がまだ元気だっってこう話を向けたときに、断られたというような話を聞いております。それがいつ頃の話だったかちゅうのは、私の記憶では定かではないが、こういう話があったということを聞いておりますが、どうでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） そういえば、そういう話があったということは、私も何か聞いた覚えがあります。それがいつだったかというのは定かでないぐらい昔だったのかなという気がしております。その用地断られて断念したということのようでございますけれども、ちょっと、そこでなぜやめてしまったのか、それは必要性がそこまでなかったのかなという気もいたすんですけども、本当に必要であるならば、何とか交渉してそこを手に入れて、公園化するのじゃないかなというふうに思ったりするのですけれども、それが私の感想でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） ありがとうございます。

私も定かな話ではないで、あんまり突っ込めないところが苦しいところなんですけど、ただ、そういう話があったっていうことを町長も知っておられたということにありがたく思っております。また、何かの機会にいい話ができて、あそこに公園が、公園という、そんないろんなものを建て

るんじゃなくあずまや1個にベンチぐらいあれば、非常に眺めのいいところなんで、また何かの機会に改めて考えていただければなという具合に思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

○町長（白石 祐治君） 実は、イベントをあそこで何回か、最近になってやってたりしますので、まずは、そういったところから関心を集めるようなことをやるのがまず最初かなという気がしておりますので、そういったその取組に対しては応援をしていきたいなというふうに思います。以上です。

○議長（三好 晋也君） 再質問はありませんか。

それでは次の質問に移ってください。

○議員（2番 芦立 喜男君） 次の質問に移らせていただきます。防災対策についてでございます。

今現在、第二分団の消防自動車、役場のへとりに、ここですかね、止まっております。非常にいい判断だったかないかという具合に思っておりますし、実際に町民の方も、考えたな、役場もというようなことを言われております。

防災センターに車庫があって消防車がある場合、ここから防災センターまで団員が行かなければならない。役場より南側で火が発生した場合、役場から防災センターまで3分5秒かかります。これは信号で、赤信号で止まっていない、あるいは、電車が通過して遮断機が下りていない場合その程度かかります。そして、3分で向こうまで行きて、また3分かかってここまで来る。ここに消防自動車がある場合とない場合は、6分強の時間のロスが出るか出ないかという具合になります。1分1秒を争うときに、6分は、あまりと言えばあまりです、火災を大きくする可能性があります。その点、役場に消防自動車が常駐してあれば安心です。しかしながら、冬に、外に常駐してあります。このことが問題だと思えます。冬は、江府町は雪が大量に積もります。そのときに、消防自動車に載った雪を落としてから出動という具合になってしまいます。今度は雪落としの時間がロスという具合になります、出動が遅れることも考えられます。

そこで、役場地域内に消防自動車の車庫を建設してはどうか、当然そこには、防火服やホースやそういう消防に関するもの、防災に関するものを常備しておくという提案でございます。よろしくをお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

消防車の関係で、今ここに車が止めてあるけれども、冬雪が降って、また雪落としに時間がかかるので、消防車の車庫を造ってはどうかという御質問だったと思います。

これに関しては、実は消防自動車に限らず、公用車の車庫をやはり必要なのではないかなと以前からちょっと思っています。確かに、何かあったときにすぐに対応するためには、車庫の中に入れてあったほうが何かと都合がいい、間違いありません。ただちょっと、この庁舎を建てる時にいろいろありまして、車庫を建設しなかったということがありますので、そのときとまたちょっと状況が変わってくるというか、いろいろな意見も出てきますので、私としては、現状から、現状に対して、消防車に限らず公用車の車庫をどういうふうにするかは、この敷地の中に設けることができるのかということをもまずは、検討してみたいなというふうに思います。ありがとうございます。以上です。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） 検討していただけるということで非常にありがたいなと思います。1分1秒を争う火事、災害に、瞬時に対応できるような対応を取っていただけることを願っております。ありがとうございました。終わります。

○議長（三好 晋也君） これで芦立喜男議員の一般質問は終了します。

○議長（三好 晋也君） 暫時休憩いたします。10分休憩を取ります。

午前10時36分休憩

午前10時46分再開

○議長（三好 晋也君） 再開いたします。

続いて、質問者、4番、川端登志一議員の質問を許可します。

川端登志一議員。

○議員（4番 川端登志一君） 4番、川端でございます。議長の許可をいただきましたので、一つ二つ質問をしたいと思っております。

高齢化の進む住民生活に必需品をいかに届けるか、喫緊の課題解決策はということでお尋ねをいたします。このことは、全国的な問題で、つい最近も、鳥取県内の農協系のスーパーが閉店し、住民の皆さんが大変困っているとの報道がありました。当町におきましても、規模の大小はありますが、同様であります。昨日の全員協議会でも論じられ、その後、NHKのテレビニュースで

も取り上げていましたが、事ほどさように皆ひとしく関心のあることなのだと思います。さきの全協で、大概の意見が出たように思いますが、ここは私なりの視点でお尋ねしようと思しますので、よろしくお願いをいたします。

さて、先ほど来の前置きのとおり、令和6年度より江尾駅前及びその近隣集落のほとんどでは、いよいよ店舗らしい店舗がなくなることとなり、交通手段の乏しい住民は不安とともにろうばいし、その困窮度は必然的に高まるのが容易に予想されるところであります。

当時、主立った集落には、それなりの個人商店や農協の支所などがあり、利便を享受していた高齢者にとっては、隔世の感を思い知る今日この頃であります。とはいえ、時の流れにはあらがひようもなく、現実を受け入れるしかないと諦めの境地の住民が多いのではないかとと思いますが、行政の責務として少しでもそのような現状を克服する政策を取るべきと思いますが、町長はどのようにお考えでしょうか。お尋ねをいたします。

また、点在する集落の、そのまた点在する住民に対して、せめて生活必需品だけでも容易に手にする手段を提供するべきと考えます。

そこで私は、次のような提案をいたしたいと思っております。

1つ、各集落に1件程度委託販売所を設けてはどうか。2つ目、それらの物品の補給は、町営バスなども利用をしてはどうか。3番目、役場、診療所、防災センターから佐川商業施設間に不定期モビリティをさせるようにしてはどうでしょうか。4番目、僻地や災害時用にドローン基地を設置して、ドローンでの配達、宅配が可能となるようにしてはどうでしょうか。5番目、現状を鑑みて、ドライバーの養成や高度化を進め、ドローンの操縦資格や航空路の取得をしてはどうかということでもあります。

以上、順にお答えいただきますようお願いをいたしますが、特に、現状の認識と克服策については、丁寧にお話しいただきたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端登志一議員の御質問にお答えします。

高齢化の進む住民生活に必需品をいかに届けるかと、それが課題なんだけれども、その解決策について具体的な御提案も交えながら、その問題意識についても詳しく説明するようというところでございました。

確かに、御質問の中にありましたけれども、本当に江府町も、人口が、昔は7,500人いた時代もありました。本当町中には商店もあり、それぞれの集落にもJAさんの支所があったりとかし

て、本当に、いろんな意味でにぎわいがあり、利便性も高かった時代だったと思います。それが現在になって、7,500から比べるともう人口が3分の1ですか、ぐらいになっておりますし、本当に高齢化率も、当時と比べてかなり高くなったと思います。ですので、特に、自分で移動のできない方については、どうやって日々の、食料品が主だと思えるんですけども、そういったものをどうやって手にするか、あるいはほかの生活必需品についてもどうやって購入するかというのが課題。これは物すごく分かっております。非常に重要な問題だと、もう本当にこれは認識しているところでありまして、ただ、この最近県内で、特に東部も中部も、西部もなんですけども、JAさんとか、もう店を閉められて、代わりにほかの民間の商業施設、スーパーが入られるといったところもありますが、江府町はさらに、それをもう2段階ぐらい進んでいまして、もともとJAさんがされていたところを、やめられたところを、あいきょうさんが引き継がれて、そこをやめられたところを、えんちゃんがされているという状況であります。えんちゃん自体もなかなか経営的に、人口が減ってきてお客さんも少ない中で、経営が厳しいので神奈川店は閉まってしまったと、江尾店に関しても、昨日からもお話もありますが、佐川のほうに移動販売の基地プラス生鮮食料を売るといったような形で、将来にわたってのある程度の計画を立てられたのかなと思います。

ただ、御指摘のように、身近に買うところなくなるんじゃないかと、本当に昨日、本当にNHKの番組を、私も再放送という形で見たんですけど、佐川になると2キロ離れてしまうということで、特に御高齢の方とかは買いに行きにくくなるということでございます。

そこで、やはりポイントになるのは、どうやって移動していくのかという移動手段のほうを私は充実したらどうかなというふうに思っていて、今、町営交通ということで、バスだけでなくタクシーのほうも走らせております。免許のない方におかれましては利用助成、それで無料券もたしか4枚ぐらいつけておりますし、その辺りをさらに御要望とかお聞きして充実させるということもあるのかなという気はいたしております。

これが取りあえずの、今やっていることで対応しようとする、そういうことでございます。

それで、先ほど御提案のあったことに1個ずつまず答えていきますと、各集落に1件程度委託販売所を設けるということですけども、これは、各集落に設けると、それこそ40か所ぐらい設けなければいけなくなって、これはもうはっきり言ってちょっと難しいと思います。ですので、これはもう移動販売で対応していただくと。えんちゃんに見守り支援ということで、町のほうも見守り支援のお金を出しながら、そういう移動販売を継続していただくことをしてもらえればなというふうに思っています。

この物品の補給は町営バスなども利用するは、今の1番のほうに引っかけますので、そこまでは考えなくてもいいのかなという話でございます。

3番目ですけれども、役場ー佐川間に不定期モビリティを走行させるというのがありますが、これに関しては、実は今、久連トンネルっていうのを工事をやっております。恐らく3年ぐらいたちますと、これが完成すると、佐川ー洲河崎間がもう多分トンネルのほうを通られて、トラックとかはみんなそっち行っちゃって、もう町の中を走る車が、多分交通量が減るんじゃないかなというふうに思いますので、そういったことを見越しながら、例えば自動運転で巡回するようなことができないだろうかということを、もうそろそろ検討し始めてもいいのかなという気がしております。いわゆる平場ですよね、平場に関しては、自動運転でぐるぐる回るようなことを考えるのが私は一番効率的のかなと思っています。ただ、山の上のほうになりますと、さすがに自動運転はまだ怖いので、そこはやっぱり人力、これちょっとまた後から話しますけれども、そういった手法、人力での手法を使ってやればいいのかと思っています。

ドローンの話でございます。こちらについては、実はもう今、いろいろと実証実験が進んでいるようでございますけれども、いきなりここに手を出すというのはまだ早いのかなという気がしておりますので、ちょっと様子を見ながら視野には入れておくといったような感じでございます。

5番はそれに関する人材養成とか資格の取得の話ですけれども、これも今、先ほどの話と連動して、具体化してきたらそういったことにも取り組んでいくのかなと思います。

それで、最後に、昨日もちょっとお話ししたんですけれども、出かける役場というのをちょっと実験的にやってみたいなと思っています。いわゆる自分では移動できない高齢者の方を対象にして、役場のほうから出かけて行って、場合によってはいろんなものをお届けするっていうこともできるんじゃないかと思ったり、あと、お金を取らなければ、たしか白タク行為にはならないんじゃないかなということも、ちょっとこの辺は調べてみないといけないんですけれども、逆にお乗せして必要な場所にお連れするっていうようなこともできたらいいなということで、ちょっと今考えようとしております。ですので、えんちゃんが移動販売、見守り、あるいは注文を受けての販売をされますので、それと同時並行で行政のほうからもそういった移動部隊を出せるようなことを考えて、不安に思っておられます移動手段のない御高齢の方への対策を立てていきたいなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） 早速のお答えありがとうございます。私の考えている考えに近い

お答えをいただいたように思って、大変心強く思うところであります。ですが、もう少し深めて、議論を深めてみたいというふうに思います。

最初の町長さんの所感に対してのことですが、必需品をお届けをするということで、食べ物等は一番最初にキーワードとして上げていただきました。当たり前のことだと思いますが、またお尋ねをしてお腹立ちになってはいけませんけれども、私たちにとって、あるいは高齢者にとって必需品というのは一体何だろうか。その必需品を届けるということで、町長さんは必需品というのはいかようにお考えか改めてちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 私も家に高齢者が2人おまして、もう90近いんですけども、生活をしていて、まずはやっぱり食べること。そして、あと、薬。そこかなと思っております。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） ありがとうございます。模範回答で、満点じゃないかなというふうに思います。私もそう思います。まず、食べるもの、そして、高齢者にとっては薬というのは切り離せないものであります。そのほかに私たちが生きていく上で必要なものといえば水、あるいは空気、本当に命を維持するためにも必要なものがあると思いますが、私は、実は何より大切なものがあるというふうに思います。それは何かというと、人の声と心、これが私たちの生きる上で必需品ではないかなというふうに思います。物だけ郵便で届けておいてオーケーというわけではないと思います。私は、白石町政の一番の肝はそこを大事にされているので、皆さんが支持をしているのではないかなというふうに思います。そして、さらには、人の声と心に加えて、一番は愛する人の笑顔と声。これがあればいかなる高齢者といえども思わずにっこりをする、安心をするということではなかろうかなというふうに思います。そういう意味で出かける役場というのは大変有効なことではないかなというふうに思います。

今、名前が出ましたので商店の名前も言いますけれども、えんちゃんがお訪ねをして、その中でどうですかという会話をする。非常にいいことですし、周辺の利用者は大変喜んでおります。そして、その中に役場の職員が出かけて行って、プラス職員の声、そして、何より、たまには町長さんが出かけて行って、こんにちは、どげなかいなと言え、いやあ、町長さんが来てごしな、まあまあ、はや上がってごしないやというようなことで、本当にコミュニケーションが進んで、高齢者の生きる糧になるのではないかなというふうに思います。

そこで、よくよく考えてみますと、えんちゃん、町長さん、江府町にはえんちゃんも町長さん

も1人しかおられません。それが今、見回りということでえんちゃんも一生懸命頑張っていたいておりますが、独居高齢者の方のところに一生懸命回っておりますけれども、順調にいつて1か月に1回でございます。そして、移動販売につきましても、各集落に巡っていくのが何とか頑張つて1週間に1回であります。その間、独居老人の方に限つていへば、それ以外を、今の冬の時期でいへばこたつの番をしてテレビを見ながら、言葉を選んで言いたいんですけども、本当に今寂しく過ごされているのではないかなというふうに思ひます。それを何とか克服するために、一番の、各集落にと言ひましたけれども、公平性を考へて各集落と言ひましたが、私はできるところからでもよろしいと思ひます。

その集落に簡単な委託販売の、お店ではないですけども、これはちょっと役場で阿部議員さんからヒントをいたひいて、昔は各集落にそういうものが1件あったんだぜということを知つたので、その後、ちょっと何集落か歩いて取材をしてみましたが、確かにあったようでございます。昭和30年から50年代にかけて各集落に実在をして、駄菓子やジュース、たばこなどを売つておられたそうです。その管理はそのおうちの人ができるんですけども、その入替え等については町内の各商店の店主さんが回つてこられて、小さな箱の中に詰めていつて、お客さんが、近所の子供たちやおじいさん、おばあさんが来ると、何とまんじゅうはないかやなんていつて来ると、はい、こん中から取つてくださいねということを取つてたと。子供たちもジュースとか駄菓子とか選んで取つてたと。何日か何週か分かりませんが、その入替えに町内の店主の方が来て補充をすると。古いものは持つて帰ると。何か昔の富山の薬売りの感じだなというふうに聞いていました。そのような程度のことでも僕は提供をされれば、1か月に1回しか来ない、あるいは1週間に1回しか来ないというのを待つのではなくて、本当にあめ玉1個でも煎餅の1個でも、何と隣の、あすこのおばさんの玄関先に行けばあるげなが、ちょっと行つてみらかといつて、玄関先をお借りして、お茶でも飲みながら日がな半日でも一日でも過ごせるという、そういう出会うの場を提供をするということで、私は1件程度各集落にということ、言葉が、あその集落というわけにもまいりませんので、できる範囲でそのようなことをしたらどうかと。そして当然、そういう手を挙げていたひいた篤志家の家には負担が生じますので、その辺りを何らかの便宜を図つてさしあげるといふようなことをすれば、私は実現が可能であらうかなというふうに思ひます。

そういう中で、物は確かに駄菓子の一つかもしれませんが、売つているのは心と会話と小さな癒やしと、そして、2つあればどっちにしようかなという見て選ぶ楽しみを得られるということでもあります。そして、いつでも屋根の下で、ちょっと出かけるのにもタクシーではなくて

シルバーカーでちょこちょこっと行って、そういうものを得られるということでもあります。移動販売も確かによろしいでしょう。それから、販売車を固定をさせてそこに行けばいいということでもあります。先ほどのいろいろな話も出てございましたが、冬場になって木枯らし吹きすさぶ野外で、そういうお年寄りたちがそんなに長時間はそういう会話とか買物を楽しめるという環境にはないと思いますので、どうかそういう意味でもう一度再考をいただきたいと思いますので、返事は要りません。町長は駄目とかって言われると、私も次、話ができませんので、所感を、今の再度の説明を聞いて、もう一度ちょっと感想をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） おっしゃいましたように、やっぱり人の声とか、心とか、笑顔とかを届けるのが大事だというのは、もうそのとおりでございますし、えんちゃんとか出かける役場以外にも実は今、武地先生、診療所の往診に出かけておられるのがすごくやっぱり心強いっていうお話も、私も高齢者の健勝事業ということで、結構御高齢の方を回らせていただいたときにそういう声を聞いております。ですので、単純にこれだけじゃなくていろんな、しかも、例えば社協さんとかもお弁当を配ったりとか、そんなこともされてますし、とにかくいろんな要素が絡み合っていくのかなというふうに思います。

それで、結構委託販売の話にこだわられておりましたけれども、あんまり細かいことを言うと、じゃあ、管理はどうするのかとか、事故があったときどうするのかみたいな話が出てきて物すごく厄介なので、あんまりそこには触れませんけれども、町内でいえば、人が集まってきて来られる場所としては俣野のふれ愛学舎、ここには人が集まってくることが出来ますし、あるいは神奈川で、今改装しましたけれども、あそこも神奈川地区の方が集まってきていただいてもよろしいですし、あるいは、今社協さんが入っておられるところもボランティアセンターということで、あそこもたしかコーヒーとかも飲めたような気もしますし、あと、ほかにも民間でやっておられるところも様々ありますので、やっぱりもしお出かけになるのであれば、そういったところに行っていたくのもいいのかなと思います。あえてそこに追加で施設を造るのはどうなのかなというのは私の感想でございます。以上です。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） あえて施設を造るのではなくて、本当にこういうことに協力をしていただけませんかということを投げかけて、ほんならうちの家の玄関先を使ってくださいということで、その程度で考えていただければいいというふうに思います。

先ほど町長さん言われました、何事も細かく考えていくと、本当に一步も踏み出すことができなくなります。例えば、事故があったらどげすうだなんていうような話をいくと、先ほど町内の交通量が減るので無人モビリティをという話がありました。私も実は、次のところで無人モビリティをやっていただきたくて、でもそのこと考えて、初め有人ということをして、言おうとしてたんですけども、無人モビリティにしたってつい先頃、福井県の永平寺町が自転車と接触事故を起こして、その原因究明できるまで運行をやめましたみたいな話になってるわけです。そういうことを考え出すと本当に何もできなくなりますので、簡単な、本当にちょっとすみませんが、その辺で協力しちゃってごしならんでしょかぐらいなことで、それから品物も、そんなに多品種なものを並べても本当に経済的にも負担がかかりますし、無駄なこともあると思います。本当にキャラメルからチョコレートから、例えば生活用品というのがあります。トイレットペーパーでもいいです、ティッシュでもいいです、そのようなものを置いていただいて、そして、そこに行ってどれにしようかなっていうふうにちょっと迷う気持ちを提供をしたらと思いますので、どうかその辺りを酌んでいただきたいですし、それに加えて、もう一個だけこの項でお尋ねしますのは、2番目のそれらの物品の補給は町営バスなども利用するというので質問しましたが、それについてはちょっと飛ばされました。私が委託販売所を思いついたヒントは、町内の人の何人かの人声もありましたけれども、常日頃バスが走るのを見て、最近は見かけなくなりました、ちょっとこの質問を考えてからよく見るようになったんですけども、朝晩のバスは確かに有人といえますか、人が乗っておられます。ですが、それ以外のときには運転者さんが一人の場合が多いです。それでもやはり所定の決められた地点を運行をするというのが、これがバスの宿命であり定めでありますので当然だとは思いますが、町民の方や我々が外から見てて、何とか、A地点からB地点に行くのにそんなに人がおらんなら、物でも例えば載せて一緒に運んだらいいかなあかなという単純な発想から、じゃあ、何を運ぶだいていったときに、何もないじゃなくて、じゃあ載せるものを考えたらいがなということで、そして、じゃあ、こういうことをすればバス停の近くに協力をしてくださるようなお方がいれば、じゃあそこに定期的に物を運べると。

そして最後に、5番でドライバーの養成や高度化を図ると言ったのは、やはりそういうことをしてもらうためにも、ただ運転をしてAに行ってBに帰るということではなくて、途中、そういうサービス等もできるようなドライバーも今後は養成をしていかんといけんじゃないかなという意味で質問をさせていただきましたので、いろいろ条例とかあって町営バスの用途をほかに使うということは難しいと思いますが、町長さんのことですので、人のやってないことを率先してやるという非常に先進的な町長さんですので、そういうことも考えてくださるのではないかなと思っ

て質問したわけですが、いかがでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） バスが結構お客さん乗らずに回ってる、これは本当に数年前、かなりそれを見かけました。特にでかいのに全然乗ってない。割と最近ではそれがちょっと少なめになってはいますけれども、やっぱり人の数も減ってきてるので目立つのかなという気がしています。

バスに荷物を積んで運ぶってというのは、実はもう大山町でやっておられて、結構利用があるというふうには聞いてます。これ、佐川急便さんと何か組んで実験はされてるようなことでございます。ただ、私がさっき答えなかったのは、委託販売のことに使うということだったのでちょっとお答えしなかったんですけれども、私は、委託販売先を頼んでそこに売ってもらうということ自体が本当に成り立つのかなというのがちょっと疑問なので、それについてはどうかなというふうに申し上げたのでバスで運ぶというのは考えてないと言ったわけで、そもそも空いているものを使って運ぶということ自体は否定するものではありません。実際にやっている町もあるわけですので、それ自体を否定するものではありません。以上です。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） 委託販売が成り立つかどうかという御心配ですが、私が、例えば一つの提案として、委託をするのは場所の提供をお願いをしたいということで、販売する中身については、先ほどから名前が出ていますので出しますと、例えばえんちゃんとかが簡単な容器に詰めた何点かの品物を入れると。販売はそういう業者さんがすると。我々は、我々っていますか、行政としてはそういう場所等を提供して、そこを、委託を受けていただける場所を探し、提供をします。そして、そこで業者さんが品物を置いていくというような方式を、今のところは私はそういうふうに想定していますが、そういうような方式ではいかがでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 具体的に、例えばある会社の方が自分のところのここを使ってやってみたいみたいな話があればちょっと考えてみてもいいかなと思います。本当にあるのかなと。町のほうでお願いしますみたいなことで頼んでいってまでやる話なのかなというところでちょっと懸念を持ってるところで、そういったことをもうやりたいという方がぼろぼろと出てきて、じゃあ、仕組みさえつくってくれたら乗るんだけどって話になりましたら、ぜひそれはやってみたいかなと思います。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） 確認いたしますが、じゃあ、そういうのを町としては投げかけな

いということですか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 投げかける気はございません。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（４番 川端登志一君） それでは、先ほど言った物ばかりじゃないですよと、人の声と心もという話を具体化するためには、こういうような方法というのはふさわしくないというふうにお考えということではよろしいですか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 私が考えている人の声と心を運ぶのが、出かける役場で、職員が直接にそれぞれの家を回るということでございます。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（４番 川端登志一君） その方式では時間のラグが大変多いので、日々私が考えるのは、いつでも屋根の下でそういうことを楽しめる環境を僕は提供すべきだということで、先ほど来お話に出ているふれ愛学舎、あるいは社協さん、診療所のお医者さんが回るということで私は十分ではないように思います。それを埋めるためにもぜひともそういうことの一つとして加えていただきたいというふうに思います。地元から、あるいはほかから、やりたいけどどんなだということというのは、なかなか自発的にはアイデアとしても浮かんできにくいと思いますし、でもやはり、町長さん、やる気はありませんというふうに言うとこれ以上話がしにくいんですけれども、でも何かしらこういうことを計画して、地元のほうでも手が挙げれば協力しますというような、せめてもの、上から剛速球を投げんにしても、下からそろっと優しいボールを投げるぐらいのことはしてあげないと、今日び物事っていうのは進まないと思うんですが、しつこいようですけども、もう一度お伺いしたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 私は、そういうのはコミュニティーの話、御近所付き合いの話だと思うので、やっぱり近所の方にちょっとお茶でも飲みに来んみたいな感じで話しかけられたらいいんじゃないかなと思います。あえて行政がそこに出て行って、そんな仕組みをつくる必要まではないんじゃないかなと思う次第でございます。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（４番 川端登志一君） その点は堂々巡りになるようなのでございますので、ちょっと切り替えまして、DXということで、そのときの町長さんのいろいろなお話の中にも一人も取り残

さないというキーワードがあったように思います。それに加えて先ほど移動の話も出ました。ぜひ移動の公平化、高齢者になったのでどこにもなかなか行きにくくていけんわというようなことがないように、モビリティの問題も前向きにどうも考えておられるようでございますので、進めていただきたいと思いますし、そして、それには一人も取り残さないという当然の考えがあるというふうに思いますので、その移動についての確認をもう一度だけして、この項の質問を一区切りちょっとさせたいと思いますので、移動の公平の問題、そしてそういう年齢等によることで不利な扱いを受けない、一人も取り残さないということについてのお考えをちょっとだけお尋ねしたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） ちょっと趣旨がよく分からなかったんですけど、一人も取り残さないというのはそういう意味もあって、本来であればやらないんですけど、行政のほうが出かけていくようなことをちょっと試みに来年度からやってみたいなということでございます。

ほかには、例えば高齢者の方にスマホを使っただけのようなことも考えてましたし、今度新たにタブレットのほうも配る、D i g i田の交付金でそういう事業も予算をいただいていますので、そんなこともやろうと思っています。ですので、こちらから出かけていくのがありますし、逆に呼んでいただくというのものもあるかと思えます。発信していただいて、うちに来てほしいっていったところに出かけていくというのもあると思えますし。ですので、お互いがそれぞれやっていかないと、全てをもう漏れなく網羅するというのは難しいので、やっぱり声も上げていただくというのも大事なのかなというふうに思います。

あと、役場だけじゃなくて、いろんな施設とか仕組みもありますので、そういったことを総動員して、一人も取り残さないということになると思えます。当然そこには御近所の方も含まれるというふうに思っています。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） ありがとうございます。そういうものの中に、先ほど来から言っているコミュニケーションを取るために委託販売所を設けるというような、具体的には委託販売は設けませんけど、その中身になるようなことも含まれているということで理解していいのでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 先ほども申しましたけども、やっぱり顔の見えるコミュニティ、助け合い、そういったところで物を売るというよりも気持ちを売る、気持ちを通じ合わせるというよ

うなことで御対応いただければいいんじゃないかなというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（４番 川端登志一君） ありがとうございます。時間がもう少しあるようでございますので、先ほど話の中に出ておりましたドローンのことについてちょっとお話を伺っておけばというふうに思います。

先ほどは高齢化の進む住民生活に必需品をいかに届けるかというお話でございましたけれども、物を届ける方法の一つとして、やはり近年ではドローンというのが欠かせないというふうに思います。その中で必需品とは何かという中に、町長さんお話しになりました薬というものがございます。私は必需品の中に非常用食品というようなことも加えて、お薬とかそういうようなものを今後、災害時あるいはそれに準じた環境、これから降雪、雪の季節になります、雪が降って道路の通行が困難だというときに、私はこのドローンというのは大変利便性の高い機器だなというふうに感じておまして、ここ10年ほどの機器の性能の進化というのは驚いていますし、実際にはかなりの能力を持っているということでございます。これについての実際の運用などのお考え、計画的なことはあるというふうにおっしゃいましたが、そのようなこと、もしもう少し詳しく聞けたらということが一つと、実際に私からのお願いとしては、僻地へ飛ばすということもありますけれども、災害時における情報の確認のために動画撮影をすとか、あるいは孤立した集落や、あるいは民家に対しての、物を実際に、あるいは救急の薬品とか、あるいは先ほど言った、この薬がなくなっちゃってもう何日も飲んでないというようなことをお医者さんと相談して、それを届けるような仕組みを実際につくるお考えがまずあるかどうかというのを、ちょっと再度お尋ねしたいというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 実は先日、夏に江尾地区の火災があったときなどは、ドローンで飛ばして状況を見るというようなことは実際にやったこともあります、それは本当にしっかり業務的に取り入れられているかとなると、まだまだのところがございます。さらに言うと、ドローンで配達するっていうところになりますと、まだ全国的にも実験やってるような感じですので、その中で私としては先陣を切ってやるというところまでは気持ちはないです。後を追いかけていくような感じでやるのかなというふうなところがございます。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（４番 川端登志一君） 先陣というのは何事も不安の要素もありますので、確かにそれによろしいかと思いますが、あまり様子を見過ぎて、はるか遠くになって行き遅れたということに

もならないようにしたいということで、提案とお尋ねをしますが、このドローンというのも最近非常に性能が上がってきたもんですし、数が増えたもんですから、国土交通省のほうも資格等や規制についてだんだんと詳しく、厳しくなってきました。ですので、あまり難しくならないうちにドローンの資格、どうも一等資格とか二等資格とかあって、その資格によってレベル1からレベル4までの飛行ルートというですかね、飛行できる場所と、あるいは高度等にも規制があるようでございますので、あまり様子を見過ぎて、いざやろうとしたときに手の届かないようなことにならないようにしていただきたいということが一つと、そして、5番のほうにありますそういうことも含めて、今、ドライバー、車を運転する、物を操作するというのも、人材不足から発して、特にドライバーに関しては2024年問題ということで、労働問題と絡めていよいよドライバーを獲得するのが非常に難しいという状況が、もう今、本当にかまびすしく言われているようなことでございます。

私は、人がたくさんいれば、あなたは車の運転、あなたはこういう機器の運転、あなたはパソコンで計画をつくってねということを手分けすればいいんですけれども、今後、そういう人材不足、人不足になったときに、やはり一人の人間でマルチな仕事ができる人を今から計画をして養成しておくべきだというふうに思います。車の運転もできるし、そして、時にはドローンの飛行ルートの座標の設定とか計画なんかもできる、そして、時にはこの役場の仕事もできるというようなマルチ的なドライバーを育てる、そして、話が戻りますけれども、時には集落のそういうお年寄りとか、そういう困ってる人のヘルパー的な手助けでもできるような人材をつくっておかないといけないんじゃないかなということで、5番の操縦資格や、そして、飛ばすにもどこでも自由に飛ばせるというわけではないようでございますので、今からそういう航路を取得するための準備をしておくべきだというふうに思いますので、最後の質問としてお尋ねしたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） ずっと待っていて遅れないようにという話は、そもそもちょっと負けず嫌いなところもあるので、そんなに、例のマイナンバーでも下のほうにおったらもう頑張る上の方に上がるみたいなことをやりましたんで、それはないというふうに思います。

あと、資格の話なんですけれども、これについては二通りあって、町民の方っていうか、町民の方あるいは町内の事業所の方、例えば除雪なんかは大型機械の免許に対する補助なんかを県がやって、町も付き合ってるんですけども、そういったところなのか、あるいは役場の職員のスキルを高めるという意味なのかっていうのがちょっと分かりかねたんですけども、いずれにしても企業さんなり町民の方であるならば、そういったニーズがあればそういう補助制度な

どを県に働きかけながら町もお付き合いするという事は十分考えられますし、役場の職員の話になりますと、これは今、実は通常業務をぎゅっと圧縮しつつ、浮かした時間で学び直し、リスクリングっていうんですけど、をしようなこともちょっと考えてますので、その中でそういった知識を身につける人がいるかどうかみたいなことを進めていきたいなというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） この設問の中で想定してるのは、実は私は後者です。役場のできれば職員の中でそういうスキルを持った人。といいますのが、各企業とか外部に出すというのは、今はどこともしっかりした企業ですので、そういう、こういうことを言うのは不謹慎ですけども、いつどうなるか分からない時代なので、やっぱりしっかりした身分、雇用制度の中で安心してこういうスキルを身につけて、いつでもどこでもその能力を存分に発揮していただくためには、私はそういういろいろな設備や条件が整った職場の中でぜひ養成していただきたいというのが、ここには書きませんでしたけれども、中身はそうです。ちょっとお答えを願いたいと思います。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 役場の中ということであれば賛同いたします。具体的に何かというのはこれから検討するんですけども、マルチな職員になっていただきたいですから、そういったことが、研修といいますか、スキルを上げるような機会を提供したいと思います。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） 以上で終わります。

○議長（三好 晋也君） これで川端登志一議員の一般質問は終了します。

---

○議長（三好 晋也君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

これをもって散会いたします。御苦労さまでした。

午前11時37分散会

---